

【葭澤秀一郎先生】

演題

「歯科から発信する いびき・睡眠時無呼吸の臨床」

抄録

新型コロナの影響もあり、体調管理のための睡眠時間の確保、そして睡眠の質について注目されています。また、海外の学会に目を向けてみても、2014 年前後から AARD (American Academy of Restorative Dentistry) などの補綴系の学会でもいびき・睡眠時無呼吸についての講演が毎年のように行われ、Dawson Academy や Spear Education などの著名なスタディーグループでも睡眠時無呼吸に特化したセミナーを行うようになってきました。近年の研究では、日本における閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA: Obstructive Sleep Apnea) の潜在患者は 2200 万人に上るとも報告されています。しかし、正しく加療されている患者はごく僅かであるのが現状です。そもそも、患者自身がいびきや無呼吸に気づいていないことも多く、また、たとえ家族や友人の指摘により認識することがあったとしても、その原因、全身への影響、労働災害や交通事故などを引き起こすリスクを知らずに過ごしていることも少なくありません。さらに、睡眠時無呼吸の検査をできるクリニック・病院は多くありますが、患者さんが自身で見つけ出すことが困難であり、受診できていないケースもあります。これら受診機会の壁を取り除くために、我々、歯科医療従事者は何ができるのでしょうか？ 実は歯科は OSA 治療に介入することに最適な職種です。それは患者の受診の頻度、歯科医療が対象とする年齢層、診察領域、検査機材が OSA 患者とマッチするためです。歯科技工士の立場からは、口腔内の模型、顔貌写真を通して小顎、歯列不正から OSA を推測をすることができます。また、インプラント体埋入位置の立案やガイドプレート製作時の CT 画像からは気道の広さを確認できることもあります。

本講演では、睡眠時無呼吸の病態、我々歯科医療従事者が臨床で気づくことのできる OSA 患者の特徴、歯科での検査項目、医科との連携方法、治療アプローチ、現在の保険制度の問題点、今後の展望についてお話しさせていただきます。